

繊維分野における戦略の方向性について

1. 繊維分野における本県の特徴について

(1) 製造品出荷額等の割合

- 製造品出荷額、事業所数、従業員数とも、機械産業に次いで第 2 位
- 製造品出荷額等の推移は、減少傾向であるものの、事業所あたり、従業者あたりでは、全国に比べ上昇傾向が顕著。

(2) 川中企業の集積

- 糸加工、織編、染色加工、縫製業まで川中企業が集積。
- ニッチトップ企業が多い（H17：40 社→H25：64 社）。

(3) 合成繊維織物の本県のウエイト

- 合成繊維織物生産量における本県のシェアは約 3 割。
- ポリエステル、ナイロンは全国の 4 割以上を占める。

(4) 高等教育機関の集積

- 人口当たりの高等教育機関が多い。

(5) 整備が進む産業インフラ

- 北陸新幹線の金沢開業、能登有料道路などの県内有料道路 3 路線の無料化、金沢港の大水深岸壁の延伸など港湾機能の向上。

2. 繊維産業分野を取り巻く環境変化について

(1) 本格的な人口減少の進行による国内市場縮小のおそれ

- 今後 10 年間で国内人口は現在の石川県人口の 5.6 倍減少。
- 国内市場縮小への高い懸念。

(2) グローバル化の進展

- 世界的な繊維産業は成長産業。新興国市場で大幅増加の見込み。
- 新興国等からの輸入品の流入の増加と衣料品単価の低下。

(3) 繊維需要の変化

- 衣料用途が減少する一方、産業用途はほぼ横ばい。
- 炭素繊維や環境・エネルギー、医療・介護分野など、今後成長が期待される新産業分野の市場規模が拡大傾向。
- SPA（製造小売業）型の専門店、ネット販売等が伸長。

(4) 少子高齢化の進行による生産年齢人口の減少

- 生産年齢人口が6割をきり、高齢者人口が3割を超える（平成32年）。
- 本県の繊維産業について、全国に比して小規模かつ高齢化率が高い。
- 人材不足、後継者不足。

(5) 設備状況

- 無杼織機（革新織機）について、新興国で積極的に導入する一方、我が国では設備投資が円滑に進んでいないことから設備の老朽化が進んでいる。

3. 今後十年間を見据えた繊維産業分野の戦略の方向性について

課題① 国内市場縮小、繊維需要の変化

→ 3-1. 差別化された新製品を開発する

- (1) 差別化された新製品を開発する
- (2) 新分野を開拓する
- (3) 販路を強化・複線化する

課題② 国内市場縮小、グローバル化の進展

→ 3-2. 海外市場の取り込み

課題③ 川中企業の集積、繊維需要の変化

→ 3-3. ニッチトップ企業を伸ばす

課題④ 少子高齢化の進行による生産年齢人口の減少

→ 3-4. 産業人材の総合的育成・確保

- (1) 高齢者の活用
- (2) 高度専門人材の確保
- (3) 若手の育成

課題⑤ 少子高齢化の進行による生産年齢人口の減少、設備状況

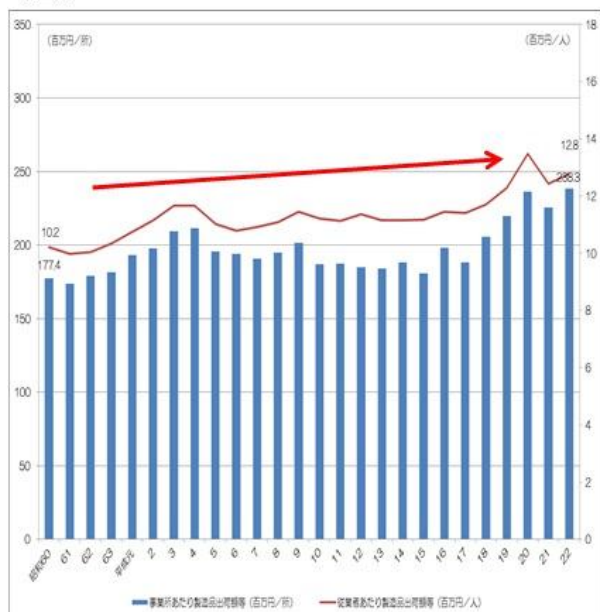
→ 3-5. 事業基盤の強化

- (1) 開発機会と連動した設備投資を促進する。
- (2) 事業承継を円滑化する。

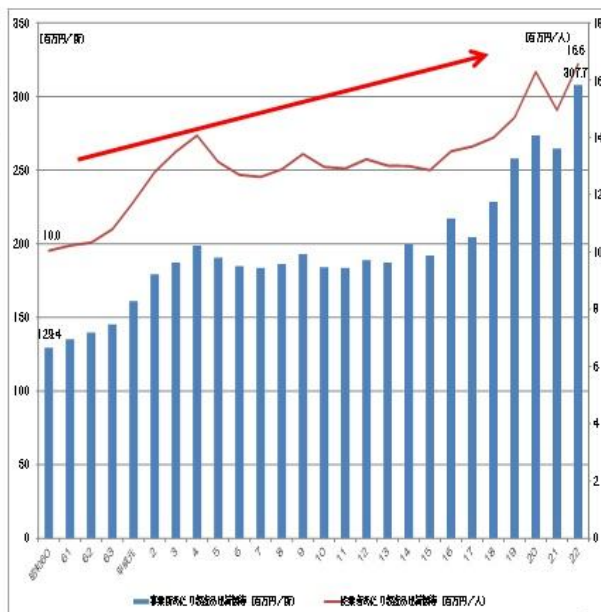
<参考資料>

①事業所あたり、従業員あたりの製造品出荷額等の推移

◇全国



◇石川県



資料)経済産業省「工業統計」(各年)より三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

②本県の織物生産量と全国に占める割合 (H23)

③合成繊維における本県のウェイト (H23)

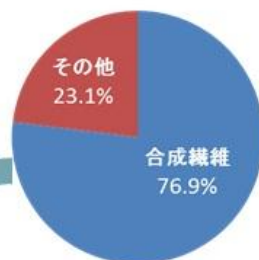
単位:千㎡

区 分	石川県 (A)	全国 (B)	全国シェア (A/B)
ポリエステル (長)	171,408	413,808	41.4%
ナイロン	62,123	135,788	45.7%
その他合繊	11,607	317,605	3.7%
合成繊維	245,138	867,201	28.3%
絹	64	3,152	2.0%
その他	-	256,679	-
合計	245,202	1,127,032	21.8%

※「その他」の中には絹紡織物、ビスコース紡織物、アセテート紡織物が含まれるが、石川県では該当数値なし(=生産していない)

(資料)石川県鉱工業生産統計(石川県) 繊維・生活用品統計年報(経済産業省)

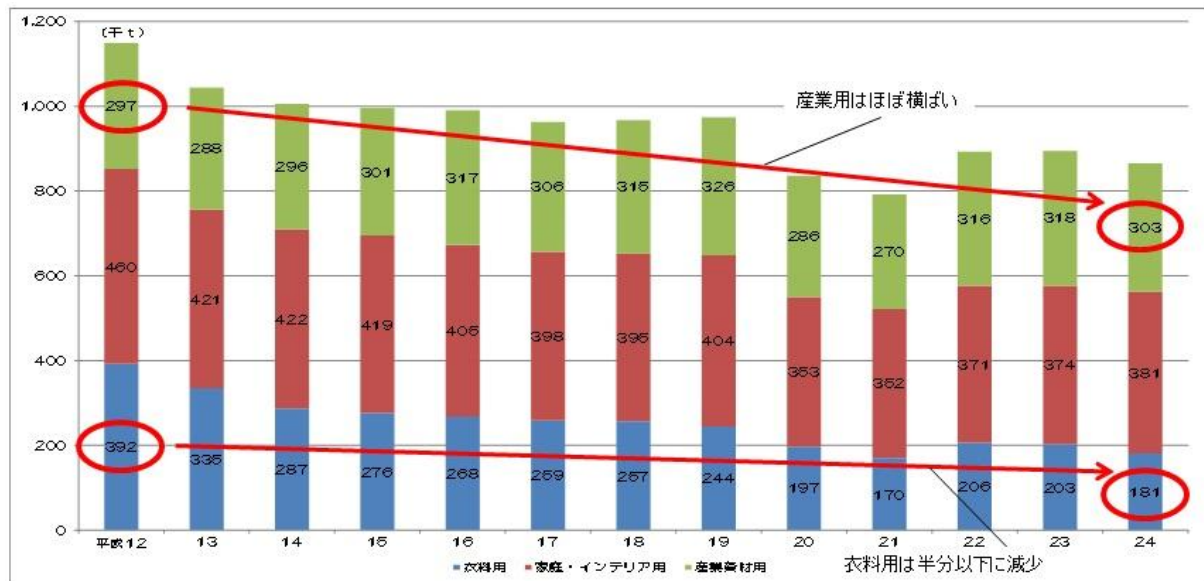
◇国内織物生産における合成繊維の割合



◇合成繊維織物における石川県の割合

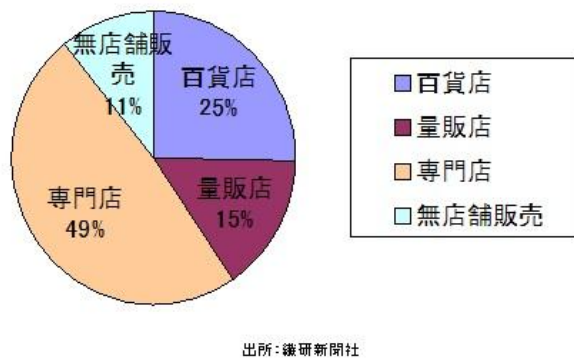


④用途別化学繊維消費量の推移



資料)日本化学繊維協会「化学繊維ミル消費量の調査結果」(各年)より三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

⑤我が国の衣料消費市場の販路別構成 (H22)



⑥販路別に見た衣料消費市場の変遷

